

※スペース節約のため、ベクトルを横に書きます。縦で書き直した方が計算しやすいと思います。

問題 1. 次の線形写像 f, g, h について、与えられた基底に関する表現行列を求めよ。 f, g, h は単射か？また全射か？

(1) $f: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^2$, $f(x, y) = (x - 3y, x + 3y)$, \mathbf{R}^2 の基底 $\mathbf{u}_1 = (1, 1)$, $\mathbf{u}_2 = (-2, 1)$

(2) $g: \mathbf{R}^3 \rightarrow \mathbf{R}^3$, $g(x, y, z) := (2x + 3y - z, x + y, y - z)$, \mathbf{R}^3 の基底 $\mathbf{u}_1 = (0, 1, 1)$, $\mathbf{u}_2 = (1, 0, 1)$, $\mathbf{u}_3 = (1, 1, 0)$

(3) $h: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^3$, $h(x, y) := (x + 2y, 2x + 3y, -x)$, \mathbf{R}^2 の基底 $\mathbf{u}_1 = (1, 1)$, $\mathbf{u}_2 = (-1, 1)$, \mathbf{R}^3 の基底 $\mathbf{v}_1 = (1, 0, 2)$, $\mathbf{v}_2 = (0, -1, 1)$, $\mathbf{v}_3 = (1, 1, 0)$

問題 2 (教科書 p. 143, 命題 5.7 (2) 参照). $\{\mathbf{u}_i\}_{i=1}^n, \{\mathbf{v}_i\}_{i=1}^n$ がともに V の基底であるとする. 恒等写像 $\text{id}: V \rightarrow V$, $\text{id}(\mathbf{x}) := \mathbf{x}$ について, $\{\mathbf{u}_i\}_i$ を id の定義域 V の基底, $\{\mathbf{v}_i\}_i$ を値域 V の基底とみなすと (教科書の記号を使えば, $\text{id}: V\{\mathbf{u}_i\}_i \rightarrow V\{\mathbf{v}_i\}_i$ とみなすと), これらに関する id の表現行列は, $\{\mathbf{u}_i\}_i$ から $\{\mathbf{v}_i\}_i$ への基底の変換行列であることを示せ.

問題 3 (教科書 p. 148, §5.3 参照). $(V, (\cdot, \cdot))$ を実内積空間とし, $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1}^n$ を V の正規直交基底とする.

(1) 各 $\mathbf{x} \in V$ に対し, $\mathbf{x} = \sum_{i=1}^n (\mathbf{x}, \mathbf{v}_i) \mathbf{v}_i$ が成り立つことを示せ. (ヒント: $\mathbf{x} = \sum_{i=1}^n a_i \mathbf{v}_i$ とおき, 両辺と \mathbf{v}_j の内積を取ると a_j が求まる)

線形写像 $f: V \rightarrow V$ は, 各 $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in V$ に対し $(f(\mathbf{x}), f(\mathbf{y})) = (\mathbf{x}, \mathbf{y})$ が成り立つとき, 直交変換であるという.

(2) $f: V \rightarrow V$ を直交変換とすると, 各 $\mathbf{x} \in V$ に対し $|f(\mathbf{x})| = |\mathbf{x}|$ であることを示せ.

(3) $f: V \rightarrow V$ を直交変換とすると, $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1}^n$ に関する f の表現行列は直交行列であることを示せ.

補足. 演習問題 9 の補足で述べたように, $\dim V = n, \dim W = m$ とすると, V は \mathbf{R}^n と同型, W は \mathbf{R}^m と同型です. V, W の基底 $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1}^n, \{\mathbf{w}_i\}_{i=1}^m$ を選ぶと, 同型写像 $F: V \rightarrow \mathbf{R}^n, G: W \rightarrow \mathbf{R}^m$ を, それぞれ次のように構成できます:

$$F\left(\sum_{i=1}^n a_i \mathbf{v}_i\right) := \sum_{i=1}^n a_i \mathbf{e}_i = \begin{pmatrix} a_1 \\ \vdots \\ a_n \end{pmatrix}, \quad G\left(\sum_{i=1}^m b_i \mathbf{w}_i\right) := \sum_{i=1}^m b_i \mathbf{e}_i = \begin{pmatrix} b_1 \\ \vdots \\ b_m \end{pmatrix}.$$

線形写像 $f: V \rightarrow W$ を基底 $\{\mathbf{v}_i\}_{i=1}^n, \{\mathbf{w}_i\}_{i=1}^m$ に関して行列で表示するとは, 合成写像 $G \circ f \circ F^{-1}: \mathbf{R}^n \rightarrow \mathbf{R}^m$ を具体的に求めることに他なりません. 実際, これらの基底に関して f が $n \times m$ 行列 A で表現されるとは $(f(\mathbf{v}_1), \dots, f(\mathbf{v}_n)) = (\mathbf{w}_1, \dots, \mathbf{w}_m)A$ ということでした. このことと, F の定義式より $F^{-1}\left(\sum_{i=1}^n a_i \mathbf{e}_i\right) = \sum_{i=1}^n a_i \mathbf{v}_i$ であることから

$$(f \circ F^{-1})\left(\sum_{i=1}^n a_i \mathbf{e}_i\right) = \sum_{i=1}^n a_i f(\mathbf{v}_i) = (f(\mathbf{v}_1), \dots, f(\mathbf{v}_n))\mathbf{a} = (\mathbf{w}_1, \dots, \mathbf{w}_m)A\mathbf{a} = (\mathbf{w}_1, \dots, \mathbf{w}_m)\mathbf{b},$$

ただし $\mathbf{a} := {}^t(a_1, \dots, a_n), \mathbf{b} := {}^t(b_1, \dots, b_m) = A\mathbf{a}$ です. 最右辺を $\sum_{i=1}^m b_i \mathbf{w}_i$ と書き直せば

$$(G \circ f \circ F^{-1})\left(\sum_{i=1}^n a_i \mathbf{e}_i\right) = G\left(\sum_{i=1}^m b_i \mathbf{w}_i\right) = \sum_{i=1}^m b_i \mathbf{e}_i, \quad \text{つまり} \quad (G \circ f \circ F^{-1})(\mathbf{a}) = \mathbf{b} = A\mathbf{a}$$

です. V と W を (基底を使って) それらと同型な \mathbf{R}^n と \mathbf{R}^m と同一視してしまうと, 線形写像 f は基底に関する表現行列 A をかける操作に見える, というわけです. 次の図式が参考になるかもしれません:

$$\begin{array}{ccc} V & \xrightarrow{f} & W \\ \uparrow F^{-1} \cong & & \cong \downarrow G \\ \mathbf{R}^n & \xrightarrow{A \text{ をかける}} & \mathbf{R}^m \end{array} \quad \text{※ “} \cong \text{” は同型であることを表す}$$